

「好きなことを仕事にしたい」

「新たに働ける場所を創り出したい」

町では、町商工会や金融機関と連携した創業希望者への支援事業を始めた。

地域に新たな活力を生み出す、「創業」という可能性。

そして、創業希望者の思いを後押しするために必要なサポートとは。

当事者および関係者の声を交えながら探っていく。

【特集】

創

る、

この

町

で。

— 川根本町の創業支援 —





※本号特集では「起業」「創業」「開業」という言葉が混在していますが、いずれも「新しく事業を始めること」という同じ意味で用いています。



町の人口が減り続けています。今年6月末の川根本町の人口は、7375人。平成18年6月末の人口は9265人であり、この10年間で約2割の1890人が減少したことになります。

人口と同様に、町内の事業所も減少傾向にあります。町内の事業者数は、本町商工会の誕生した平成21年度当初では510事業所でしたが、今年度当初では434事業所にまで落ち込んでいます。

こうした状況を打破し地域のにぎわいを取り戻すため、町では昨年度に「川根本町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。同戦略は、今後5年間の達成目標とその手段となる施策を示すもの

で、町民をはじめ産業界、教育機関などで構成する委員会において議論・検討されました。

そして、この戦略の中で掲げられている基本方針のひとつに、「多様な就業環境の創出」があります。

町の人口が減り、そして雇用の場が減る中で、これからのように地域に仕事の場を創り出し、定着させていくか。

その手段のひとつが「創業」の促進です。同戦略では具体的な達成目標として、新規創業者数を、平成31年度までの5年間で10人生み出すことを目指しています。

次のページからは、この町で動き始めた「創業支援」の取り組みと当事者および関係者の声を紹介します。

桑野山地区で創業した宮原さん夫妻。藤枝市から移住し、町の創業支援を受けて古民家レストランをオープンした(関連記事=6ページ)。週末には、噂を聞きつけ、静岡市から訪れる女性や、外国人観光客の姿も見られる。また、地区住民も気軽に立ち寄る「憩いの場」でもある。